

1 沿革

平成23年	6月	1日	磯部小学校、磯部中学校、中村第二小学校、中村第二中学校へ定期的なスクールカウンセラー派遣
平成23年	6月	2日	特定非営利活動法人相馬フォロアチーム設立 理事7名、監事1名、事務局長1名、スタッフ6名 理事長に山田耕一郎、副理事長に長 有紀枝が就任
平成23年	9月	1日	日立木小学校へスクールカウンセラー派遣
平成23年	11月	1日	玉野小学校へスクールカウンセラー派遣
平成24年	4月	1日	理事長に羽根田万通、事務局長に渋谷常範が就任 アート・メゾン予定地に仮設事務所を設置し、生涯学習会館より移転 山上小学校へスクールカウンセラー派遣
平成25年	4月	1日	事務局長に齋藤順至が就任
平成25年	12月	2日	事務所をLVMH子どもアート・メゾンに移転
平成26年	4月	1日	カウンセラー3名・保健師1名から、カウンセラー4名体制 世界の医療団からカウンセラーの支援派遣
平成26年	7月	2日	LVMH子どもアート・メゾンが正式にオープンし、相談室での相談を開始
平成27年	4月	1日	カウンセラー3名体制
平成28年	4月	1日	事務局長に堀川幸一が就任
令和元年	10月	15日	台風19号等による水害で、相馬愛育園に一時事務所移転
令和3年	3月	16日	改修されたLVMH子どもアート・メゾンに事務所移転
令和3年	4月	1日	事務局長に山野辺藤夫が就任

2 設置の趣旨

相馬市内の子ども、保護者、教員に対して、震災により生じた心理的ショックを緩和するための心理的なケアを行い、市民の心の健康の維持に寄与するとともに、子どもたちの生きる力を育むことを目的とする。

3 活動方針

子どもの「自分らしさ」と「しなやかさ」を育み、未来の選択肢を広げられるようにします。そして、子どもたち一人一人が自己を見つめ、自分らしい生き方を選択できるようにします。そのために、子どもたち個々に応じた安定的な支援を行います。

4 組織

(1) 理事会

理事長	羽根田 万通(会社役員)	副理事長	長 有紀枝(難民を助ける会長)
理事	上 昌広(NPO法人医療ガバナンス研究所理事長) 近藤 菜々子(弁護士) 佐藤 達雄(税理士) 片寄 雅彦(医師)		
監事	反畑 正博	事務局長	山野辺 藤夫

(2) スタッフ

担当	職名	氏名		
心理支援	カウンセラー	情野 武志 阿部 麻美 飯高 有貴		
事務局	事務局長	山野辺 藤夫	事務員	齋藤 玲子

5 事業の概要

(1) 学校巡回型心理支援

① スクールカウンセリング

- ・ 児童生徒や保護者へのカウンセリング活動
- ・ 震災遺児への継続的・多面的な見守り活動及びカウンセリング
- ・ 教員が児童・生徒の問題を効果的に解決できるような援助

学 校	担 当	曜 日
中村第二小学校	情野 武志、阿部 麻美	月・火
中村第二中学校	阿部 麻美、飯高 有貴	火・水
磯部小学校	飯高 有貴	木
磯部中学校	情野 武志	木

② 教職員への支援

- ・ 教員研修の実施と講師派遣

③ 緊急支援

- ・ 児童・生徒等に関わる事件や事故が発生した際に、上記以外の学校にも短期、集中的にカウンセラーの派遣

(2) 拠点型心理支援

① LVMH子どもアート・メゾン相談室での活動

- ・ 原則乳幼児から18歳までの子どもに関する来所相談
- ・ 保護者の希望に応じて、幼稚園、保育所、学校、関係機関との連携

場 所	担 当	曜日・時間
アート・メゾン相談室	情野 武志、阿部 麻美、飯高 有貴	平日(9時～17時)

(3) 他機関と連携した心理支援

- ① 関係機関や組織、教育機関との連携・協働
- ② 子育て支援(保健センターへのスタッフ派遣等)
- ③ スクールソーシャルワーカー(SSW)との連携・協力

(4) 相馬看護専門学校との提携事業

- ① 相馬看護専門学校の学生に対し、心理支援活動を行う。

理事長あいさつ

令和4年3月16日夜半の地震は、相馬地方に大きな被害を与えました。震度6強の揺れは、城下町の雰囲気を持った市内の多くの古い家屋を破壊しました。土台、外壁、内壁、戸や窓の開け閉め、屋根の棟や瓦の崩落などの被害の上に、タンスや本棚が倒れ、物が山のように散乱し、陶磁器やガラス製品も割れ、家の内も外も大混乱な様子です。これらの所有者には年輩の方々が多く、片付けがなかなか進まないと困っています。現在、被災家屋の取り壊しが所々で始まっていますが、皆さんから「新築するなら、地震に強いコンパクトな家が良い」という話を聞きます。松川浦の旅館業の方々は、コロナ禍で客足が減っているところに昨年2月の地震で被害を受け、やっと直して、これからというところで今回の地震です。二重、三重にと大変な被害状況です。

私の印象ですが、年輩の方々を中心に沈みがちになっているように感じられます。子どもたちへのカウンセリングと同時に年輩者へのカウンセリングも必要になってくるだろうと感じています。

また、地域文化が大きく変わるだろうと考えています。“相馬地方は、災害が少ない地域、気候は温暖、魚も里の産物もうまい”こんな地域観が今後も持ち続けて行けるのか不安です。

ネット社会の拡大の中で、子どもたちを守るための法・体制が整備・強化されてきています。それと同時に、この地方の先輩者の心のケアにも何らかの働きかけが必要になってきているように思います。

今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

令和4年4月

NPO法人相馬フォロアーチーム

理事長 羽根田万通



2022(令和4)年度要覧



特定非営利活動法人

相馬フォロアーチーム

〒976-0042 福島県相馬市中村2-2-15 LVMH子どもアート・メゾン

電話 0244-35-6200

FAX 0244-35-6215

URL <http://www.soma-ft.org/> E-mail sft@soma-ft.org